

者を重用するシフトに変更した証拠ではないかと思えることができる。前方後円墳の規模や形態はヤマト政権によって序列化され「統制された」というまとめのお話をお聴きし、塚口先生もうなずいておられました。

塚口先生からは「若狭・丹波・但馬の首長層の盛衰が四世紀末の内乱に起因するヤマト王権の政治担当集団の交替と深く関わっていた」というお話を伺いました。この詳しい内容は『つどい』（264号）平成二十二年一月号に「四、五世紀の丹波とヤマト政権」と題して掲載されていますので、ご覧になってください。

帰りのバスの中では何回も何回も虹が架かっているのを見ました。「何かいいことがあるのかな？」と思いつながら、大阪に到着。電車に乗ると、行くときはあれほどマスクの人がいたのに、帰りはほとんど見かけませんでした。「新型のインフルエンザが退散してくれたんだ」と思ったのですが、そうはいかなかったようです。塚口先生、山口さん、岩元さんお世話になりました。

## 大極殿の大屋根に金色に輝く、鷲尾と「大棟中央飾り」

（会員） 阪口 孝男

大棟中央飾り



奈良の平城宮跡に復元された大極殿がその雄姿を見せています。昨年十二月四日、現地を訪れました。現場は未だ周辺を整地中で、大極殿の周りも塀で囲われて側には近寄れませんでしたが、大屋根の金色に燦然と輝く鷲尾の姿には感動致しました。

処がその大屋根の中央には見たことのない飾り物が据えられています。（写真上）早速、文化庁に尋ねてみました。この飾りは奈良時代に創建された大極殿には存在した証拠はないが、荘厳化の為に恐らく設置されていたであろうと云う想定の下に復元されたもので、歴史的な名称でなく実態に即して「大棟中央飾り」と命名されているそうです。

また、類例として、文献上では、西大寺薬師金堂の大棟の中央に飾りがあったことが確認されているそうです。

